

「心の会の碑」(仮称) 建立賛同者350余人に 北大に全面的協力を再度申入れ

北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会の山本玉樹代表、北明邦雄幹事、根岸事務局次長は 9 月 30 日、佐藤浩司・北大総務企画部総務課課長補佐に、別項の申入書と、「心の会の碑」(仮称) 建立に賛同する 350 余人の名簿を手渡し、北海道大学として全面的に協力するよう申し入れました。

2014 年 9 月 30 日

北海道大学

総長 山口 佳三 殿

北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪
事件」の真相を広める会

代表 山野井孝有

同 山本 玉樹

「心の会の碑」(仮称) 建立について

標記につきまして、5 月 7 日に行われた三上隆・副学長との話し合いの席上、前日の市民の集いで採択された『心の会の碑』(仮称) 建立にご協力を」との文書をお渡しして主旨をご説明し、5 月 28 日には、山口佳三総長宛に、北海道大学構内・旧外国人教師官舎跡の一画に建立地を無償提供の要請書を提出しました。

以後今日まで、要請書の末尾に記した賛同者を募る運動を進めてきました結果、9 月中旬現在、上田文雄・札幌市長、横山清・北大経営委員をはじめ、北大OB、各界有識者等 350 人から賛同が寄せられています。賛同文書には建碑を熱烈に期待する意見が多数記載されているとともに、建立資金ご寄付も届いております。

これまでの経過と現状を踏まえて、呼びかけ人とともに別紙の賛同者一同の名簿をお届けし、北海道大学構内・旧外国人教師官舎跡の一画に建立地の無償提供を、重ねて要請する次第です。

具体的には、「10 m² (3 坪) 程度の碑建設用地」の提供と、出来るなら碑周辺に一定程度の空間 (例えば 500 m² を小公園にするなど) の確保を要請します。

真理に倚って立つ自主独立の自修心を育むことを教育思想とする北海道大学として、まさに自主独立の精神に基づいて進めている「心の会の碑」(仮称) 建立について、ぜひとも全面的なご協力を切に要望いたします。

なお、本件につきまして、寄せられた賛同の声をはじめ、私どもの思いを再度、お伝えしたく、10 月中にぜひとも話し合いの場を設けていただきたく重ねて要請致します。



申入書を手にする山本玉樹代表 (右) と北明邦雄幹事 (北大前にて)

去る 5 月 6 日に北大学術交流会館講堂で開催した「秘密保護法廃棄と宮澤弘幸の名誉回復を求める市民集会」で採択された『心の会の碑』(仮称) 建立に協力を」アピールに対する賛同者は、350 余人にのぼりました。

そこで、この賛同者の氏名と碑建立のために必要な土地面積など具体的な内容をまとめ、北海道大学に対して再度協力を申し入れたものです。

今こそ、あの戦前の困難な時代に灯し続けた「心の会」の理想と情熱を再確認して、広く社会にアピールすべきです。引き続き、呼びかけに対するご賛同とご意見を募っています。事務局までお寄せください。

*

これまでに公表を承諾していただいた賛同者のお名前とともに、寄せられたご意見を紹介します。

「心の会の碑」(仮称) 建立に賛同します

◇北海道大学関係者

麻田信二（酪農学園大学理事長、農卒）浅田政広（旭川大学名誉教授、経卒）味村隆史（文卒）姉崎洋一（北大教育学研究院特任教授・名誉教授）油川英明（北海道教育大学名誉教授、理卒）天野哲也（元北大教授、文院卒）荒又重雄（北大名誉教授、経院卒）飯原忠夫（元大日本印刷、経卒）猪狩久一（弁護士、法卒）猪狩康代（弁護士、法卒）池内了（名古屋大学名誉教授）石坂昭雄（北大名誉教授・元経済学部長）石井明典（元銀行員、経卒）石垣仁司（北洋銀行勤務、経卒）石山聖晴（元高等専門学校教諭、文卒）居城弘（静岡大学名誉教授、経院卒）居城舜子（元常葉学園大学教員、経院卒）泉定明（経卒）伊藤陽一（法政大学名誉教授、経院卒）伊藤セツ（昭和女子大学名誉教授、経院卒）伊藤誠一（弁護士、法卒）稲垣正策（元道愛女子中学高等学校教員）井上勝生（北大名誉教授）岩田健三（元北大教員、理卒）岩渕雅樹（元京大教授・農業生物資源研究所理事長、理院卒）岩渕圓（元高校教諭、理院卒）岩本一郎（北星学園大学教授、法卒）岩崎俊夫（立教大学経済学部教授、経院卒）牛山敬二（北大名誉教授）太田一男（酪農学園大学名誉教授）大泉英次（和歌山大学名誉教授、経院卒）大友浩（元北星学園大学学長、文卒）大庭幸生（北海道史研究会員、文卒）大佐賀美弦（高校教員、薬卒）岡野哲（北大名誉教授・元言語文化部長、文卒）小川廣（元道立衛生研究所、薬卒）奥井則行（元高校教諭、水産卒）奥井登代（元道立衛生研究所、獣医卒）小栗豊二（元高校教諭、水産卒）小栗絢子（小児科医、医卒）尾崎毅（元基礎生物学研究所教員、獣医卒）小田清（北海学園大学教授、農院卒）小野有五（北大大学院名誉教授、北星学園大学教授）香川恒夫（元高校教諭、文卒）加来祥男（北大名誉教授、経卒）梶田博昭（(有)地域メディア研究所代表、法卒）金川弘司（北大名誉教授、獣医卒）神沼公三郎（元北大職組委員長・北大名誉教授、農院卒）神谷忠孝（北大名誉教授・北海道立文学館理事長、文卒）唐渡興宣（北大名誉教授、経卒）刈谷純一（元毎日新聞記者、文卒）川崎繁（小児科医、医卒）河野民雄（元高校教諭、文卒）川原幸則（元第一三共研究所長、薬卒）河道前伸子（薬卒）神田健策（弘前大学名誉教授、農卒）北川恭三（コープさっぽろ、農卒）北明邦雄（前北海高校校長、文院卒）熊本信夫（元北海学園大学学長、法院卒）桑原真人（札幌大学学長、文院卒）小暮成一（文卒）

越野武（北大名誉教授、工卒）後藤晃（元北大教授）小林真之（北海学園大学名誉教授、経院卒）小森堂男（旅行会社勤務、経卒）近昭夫（静岡大学・九州大学名誉教授）紺井博則（國學院大學経済学部教授、経院卒）近藤勝（経営コンサルタント、経卒）今重一（弁護士、法卒）齊藤隆夫（群馬大学名誉教授、経卒）齊藤修治（経卒）齊藤佑揮（弁護士、法卒）酒井誠一郎（元北海道新聞記者、農卒）佐々木隆生（北大名誉教授、北星学園大学教授）佐々木洋（元札幌学院大学教授、農院卒）佐藤市雄（元会社員、経卒）佐藤哲之（弁護士、法卒）佐藤博文（弁護士、教育卒）佐藤太勝（弁護士、法卒）佐藤幹雄（日本キリスト教団岩見沢教会牧師、工卒）芝田和子（元名寄短大教授、理卒）白取祐司（北大法科大学院教授、法卒）辛昌錫（農卒）神保大地（弁護士、法卒）鈴木秀一（北大名誉教授）鈴木良始（同志社大学教授、経院卒）鈴木皇（元北大教授）須田力（北大名誉教授、教育卒）関口明（札幌国際大学教授、文院卒）高崎暢（弁護士・元日弁連副会長、法卒）高崎裕子（弁護士、法卒）高月三世子（元東京女子大学同窓会会長）高橋昭夫（獣医師、獣医卒）高橋延昭（元札幌医科大学教授）竹中英泰（旭川大学名誉教授）竹田正直（北大名誉教授）武田晃二（岩手大学名誉教授、教育院卒）田中章義（東京経済大学名誉教授、経院卒）田中貴文（弁護士、法卒）田中宏（弁護士、法卒）田中秀実（文卒）田中滋郎（元農林水産省九州農試場長、理卒）田端宏（北海道教育大学名誉教授、文院卒）田部徹（経卒）玉真之介（徳島大学教授、農卒）田村一郎（鳴門教育大学名誉教授、文院卒）田村喜代（眼科医、医卒）常田武（経卒）徳勢正昭（教育卒）徳永好治（北海道教育大学元副学長）富森虔児（北大名誉教授）富森孜子（元札大教授、経院卒）中本和秀（札幌大学教授、経院卒）中村廣治（理卒）長屋政勝（京都大学名誉教授、経院卒）中島岳志（北大大学院准教授）成島辰巳（元大阪学院大学教授、経院卒）和孝雄（北大名誉教授、農卒）西陰研治（理卒）西村清（経卒）橋本信夫（北大名誉教授）橋爪顕一（建築会社勤務、工卒）橋本良仁（工卒）服部昭仁（北大名誉教授・食肉科学技術研究所理事長、農卒）羽部朝男（北大理学部教授）濱口武人（弁護士、法卒）平野哲夫（札幌市立病院勤務、医卒）平田幸夫（札幌市職員、経卒）福原正和（小児科医、医院卒）福地保馬（北大名誉教授、医院卒）藤井寛治（元北大教授、理院卒）藤田正一（元北大副学長）

藤原洗一郎（元北大教授、農院卒）船越三朗（元北方生物圏フィールド科学センター助手、農卒）古川俊実（元新聞記者）堀井春生（元会社員、経卒）本間みゆき（文卒）前田輪音（北海道教育大学准教授、教院卒）前川光司（北大名誉教授）前川悦子（水産卒）前田次郎（経卒）松崎道幸（道北勤医協旭川北医院院長、医卒）松村芳明（法卒）三島徳三（北大名誉教授、農院卒）南敬（元会社員、経卒）嶺野幸子（理卒）美馬孝人（北海学園大学名誉教授、経院卒）宮本謙介（北大特任教授）宮下郁男（旭川大学経済学部教授）村瀬喜之（元赤旗記者、工卒）本谷高哲（文卒）森杲（北大名誉教授）森本英之（元朝日新聞記者、文卒）森谷常生（元札幌大勤務、理卒）森稔（北大中退）森越清彦（弁護士・函館弁護士会憲法委員会委員長、法卒）諸富隆（北大名誉教授）梁田政方（法中退、元日本共産党中央委員）山口博教（北星学園大教授、経院卒）山形定（北大工学部教員）横山清（㈱アークス代表取締役、水産卒）横倉友子（法卒）吉崎祥司（北海道教育大学名誉教授、文院卒）吉田省子（北大農学部研究員客員准教授、理院卒）吉田徹也（北大名誉教授）吉田文和（北大経済学部特任教授）吉田隆（北大卒）吉田栄一（元高校教師、農卒）吉田万三（元東京都足立区長、歯卒）吉野正敏（NPO 法人自由が丘学園と共に人間教育を進める会理事長）米山悟（NHKカメラマン・北大山岳部、理卒）ロバート・クラッツ（元北大英語講師）若原弘道（経卒）和氣和民（元北大医療短大教授、理卒）鷲尾宏（理卒）

◇一般市民等（道内在住者）

浅里慎也（北星学園女子中学高校校長）秋間達男（元高校教員）阿部敏夫（元北星学園大学教授）壹岐伸子（美術家）石田明義（弁護士・北海道平和委員会理事長）岩間忠廣（北海道歴史教育者協議会会長）上野祥子（元社会福祉士）上田文雄（札幌市長、弁護士）太田賢二（弁護士）大橋真樹（日本国民救援会札幌西支部事務局長）荻野富士夫（小樽商科大学教授）小山内道子（元北海道教育大学非常勤講師）越智晴子（北海道被爆者協会会長）上出晶子、菊地大（NPO 法人余市教育福祉村理事長）岸本和世（日本キリスト教団牧師）北川健一、久世そらち（日本基督教団北海教区議長・札幌北部教会牧師）國田昌男（北海道高等学校教職員組合中央執行委員長）久保田正子（看護師）國府谷よし子（元道立衛生研究所）郷路征記（弁護士）小沼信廣、小林良裕（勤医協中央病院医師・札幌メノナイト教会牧師）小松豊（札幌郷土を掘る会事務局長）齊藤耕（弁護士・北海道憲法会議事務局長）齊藤貞子、坂口勉（元北海道教育大学教授）坂本和昭（坂本ビル代表取締役・帯広）坂本友子（坂

本商事株式会社・帯広）里村寛（元毎日新聞）佐藤光子（画家）篠原省三（薬剤師）柴川悦子（元会社役員）清水忠（郵政職員）清水裕二（元北海道公立学校校長）新海雅典（カトリック小野幌教会神父）末廣完二（元保険会社）末廣美恵子（元保険会社）鈴江英一（元北海道教育大学教授・教会アーキビスト）相馬述之（北海道宗教者平和協議会）外岡秀俊（ジャーナリスト・元朝日新聞編集局長）高橋重人（元札幌市議員）高橋広子、竹村泰子（元国会議員）田中了、田中豊（郵便局勤務）田村信一（北星学園大学学長）津田光輝（元大学教員）寺澤佳昭、戸川享子、殿平善彦（一乗寺住職＝深川）鳴海典子（北海道被爆者協会）西岡昌一郎（旭川六条教会牧師）西雪公啓（税理士）西雪恭子、西村満津子（元毎日新聞北海道発行所労組書記）ニ部黎（彫刻家）仁和亮（元日本道路公団）根岸正和（元毎日新聞）林秀起（元会社員）肘井博之（弁護士）福山瑛子（元新聞記者）藤本明（弁護士）増山和則（元北海道機関紙）松竹谷智（北海道柔道整復専門学校講師）松江勇（元毎日新聞北海道支社）松永ヒサ子（元介護職）水谷のぼる（彫刻家）皆川真知子（教員）峯廻攻守（西門山病院名誉院長）三宅信一（北海道教育大学名誉教授）宮田汎（治安維持法国陪同盟北海道本部会長）宮川恭一（元会社員）吉田直美、渡辺達生（弁護士）渡辺東洋明、渡辺祐二（元高校教諭）

◇一般市民等（道外在住者）

浅川仁、浅田俊雄、浅田喜久子、麻生啓子、安部紀子（演鑑事務局）池田龍夫（元毎日新聞記者）石塚勝（元新聞記者）石賀田鶴子（JAL 不当解雇撤回裁判原告団）石戸谷滋（元岡山大学助教授）磯貝佳身（元毎日新聞中部印刷工）市川八郎（元毎日新聞社員）伊藤利雄（元毎日新聞中部本社）今井昂司（元会社員）内田秀人、榎本栄次（京都世光教会牧師）江守信正（元毎日新聞東京本社）大住広人（元新聞記者）太田宣也（日本日中友好協会副理事長）岡武宏（地方公務員）岡崎なつき奥村博（元 JR）小原文夫（元読売新聞）金子勝（立正大学名誉教授）神谷扶左子（ストップ秘密保護法かながわ）川村好正（元 MIC 事務局次長）河部寛美（元公務員）岸井成格（ジャーナリスト・毎日新聞社特別編集委員）北村善和、キリスト友会東京月会（宗教法人）梶勇（元毎日新聞）栗原一郎（毎日新聞記者）栗原圭子、栗原四郎、香田玲子（英会話講師）瀬藤厚（山口大学副学長）小林昇（元総理府労連）小森順江（元国立国会図書館勤務）近藤理昭、佐々木宏人（ネットジャーナリスト協会事務局長）佐藤良一、宍戸迪武（元毎日新聞）柴川悦子

(元会社役員) 榛葉悦郎 (静岡県平和委員会理事長)
 鈴木暁子、関千枝子 (ジャーナリスト、安倍靖国参拝
 違憲訴訟原告団長) 高橋輝雄 (弁護士) 竹市年伸 (元
 毎日新聞中部本社地方版編集長) 田中重仁 (弁護士)
 田中良子 (元高校教師・J.FOR 理事長・キリスト友会
 東京月会員) 田中武、田場武勝 (元毎日新聞) 田村徳
 章 (元毎日新聞)
 茶原正士 (いなざわ九条の会) 津田秀一、寺沢玲子 (元
 日本ヒマラヤ協会) 豊岡朋子、内藤功 (弁護士・元参
 議院議員) 中原章雄 (元東京簡易調停委員) 中村勉 (元
 岩手大学教授) 中野貞彦 (日本科学者会議) 長瀬正昭
 (元世田谷区学校警備員) 長崎美代子
 西本武志 (日本勤労者山岳連盟) 西山公雄 (元毎日新聞)
 畠山陸雄 (元書店勤務) 浜林正夫 (一橋大学名誉
 教授) 橋本左内 (牧師・前日本宗教者平和協議会理事
 長) 橋本敦 (弁護士・元参議院議員) 橋本進 (ジャー
 ナリスト・横浜事件を語り伝える会) 橋本利治、畑田
 重夫 (日本平和委員会代表理事) 日巻聡明
 日巻方子、福島清 (元毎日新聞) 藤谷浩 (元東京都障
 害児学校教職員組合委員長) 藤田修二、藤原真由美 (弁
 護士) 古里洋幸 (元毎日新聞) 古川義亜 (元毎日新聞)
 毎日新聞労働組合、真木枝里子、増本一彦 (弁護士)

増永道夫 (毎日新聞)
 松島和幸 (区労協) 丸山東子 (画家) 丸山重威 (ジャー
 ナリスト) 三浦恒男 (元新聞記者) 三上満 (元全労
 連議長) 宮崎定邦 (弁護士) 宮澤幸太郎 (元読売新聞)
 宮地さか枝 (東京山宣会会員) 明星直道 (元毎日新聞)
 持田勝 (キリスト教伝道者)
 森賢一 (元日本平和委員会事務局長) 山勢哲三 (元毎
 日新聞) 山本有次郎 (日本国民救援会東京都本部副会
 長) 山本隆造、山田善二郎 (日本国民救援会顧問) 山
 内覚 (地方公務員) 吉村りよみ (元小学校教諭) 芳尾
 孝治、渡辺哲司 (弁護士) 渡邊卓
 飛田和夫、小林秀治 (千代田区労協議長) 小林寛志 (日
 本マスコミ文化情報労組会議副議長、千代田区労協副
 議長) 里見一司 (千代田区労協副議長) 水久保文明 (千
 代田区労協事務局長、「真相広める会」事務局次長) 橋
 口文明 (千代田区労協事務局次長) 小助川智 (千代田
 区労協常任幹事) 鈴木賢一 (同) 山口泰司 (同、旬報
 法律事務所) 小番孝也 (同、電算労東和システム支部
 委員長) 藤本佳男 (同) 小泉剛志 (同、千代田区職員
 労働組合書記長) 見機望 (同、全労) 茂呂文彦 (同)
 赤羽勲 (同)

建立賛同者から寄せられた意見

◇北海道大学関係者

再び、先輩 (宮澤弘幸) の悲劇を繰り返さぬために
 も、必要と思います。(味村隆史・1961 文卒)

＊

大学に「碑」建立スペースを無償で提供させる (そ
 の意味で大学に謝罪させることになる)。このようなこ
 とが二度と起きない (起こさせない) ような姿勢を示
 させるべきだと思います。(姉崎洋一・北大特任教授)

＊

「心の会」は、建学以来の外国人教師との自由で独立
 した人格として交わり、良きものを吸収するという精
 神のあらわれであり「北大で過ごした青春」を持つも
 のの誇りであり、継続してゆくべきものでしょう。そ
 れが、このことを理解できない狭い視野で政策を推し
 進める者により、無残にもつぶされたのが「宮澤・レ
 ーン事件」です。この「良き建学の精神」が潰された
 ことを、後世の学校関係者にも伝えていくために「心
 の会の碑」の建立を求めます。(泉定明・1967 年経卒)

＊

私もレーン先生に英会話をお習いした一人です。そ
 れなのに宮澤さんのことも何も知らずに生きてきたこ
 とを想い、今できることをしたいと思います。「真相を
 広める会」の活動に敬意を表し、「心の会の碑」建立に
 賛同します。(伊藤セツ・経院、昭和女子大名誉教授)

＊

つまらない、あるいはもう撤去すべき石碑の多い北
 大キャンパスに、ぜひとも建てるべき碑であると思い
 ます。よろしく願いいたします。(小野有五・北大名
 誉教授、北星学園大学教授)

＊

宮澤・レーン・スパイ冤罪事件、イールズ闘争事件、
 アイヌ遺骨問題、ここ数年の教職員賃金引下げ、非正
 規雇用職員の労働条件を低位にとどめている事態、北
 大教職員組合に対するたび重なる不当労働行為など、
 どれをとっても北大のブラック・ユニバーシティ (B
 U) 性は明らかである。そんな北大がBUの汚名を全
 面的にそそぐために、まず宮澤・レーン・スパイ冤罪
 事件について、故・宮澤弘幸氏の名誉回復を行い、「心
 の会の碑」の建立に謙虚に、かつ前向きに対応する必
 要がある。(神沼公三郎・北大名誉教授)

＊

戦後 70 年。「平和」が怪しくなっています。この企
 画の実現に、本当に微力ながら応援させていただきま
 す。(酒井誠一郎・1959 年農卒、元北海道新聞記者)

＊

私は昭和 38 年に北大教養でレーン先生に英語、大
 黒マチルド先生にフランス語の会話の授業を受けた者
 です。レーン先生の最後の授業でした。レーン先生は
 何も語るものがなく、私は上田誠吉弁護士の著作では

じめて宮澤事件のことを知った次第です。「碑」建立については大賛成です。最近の状況をふまえるならば、北大当局は土地無償提供はもちろんのこと、率先して宮澤事件の真相をひろめていくべきものと思います。
(佐藤太勝・弁護士)

＊

民主主義、人権、平和を尊重し、守るため、そして北海道大学のためにも、是非「心の会の碑」の建立、それも外国人教師官舎跡への建立を強く希望します。
(和孝雄・1961年農卒、北大名誉教授)

＊

安倍政権のもとで「戦争する国」への動きは、多面的に進められています。北大で学んだ者として、二度と宮澤・レーン「スパイ冤罪事件」を引き起こさせないためにも、大学当局に猛省して貰い「心の会の碑」を建立することは重要だと思います。(西村清・1963年経卒)

＊

北大にとって大切な問題だと思います。多くの学生にこの事実を知ってほしいと思います。語り継がなければいけない問題だと思います。(羽部朝男・北大理学研究院教授)

＊

当局の弾圧にもめげず、国際的な友情と信頼を貫いた宮澤さんたちの行為こそ真の「積極的平和主義」と言えるでしょう。このような蛮行を繰り返させず、事件を語り継いでいくシンボルとして、「碑」の建立を実現させたいと思います。(前田次郎・1968年経卒)

＊

思想の自由をおかしてはならないという決意の象徴として北大に碑を建てるのが、未来を確かなものにすると考えます。(松崎道幸・1975年医卒、道北勤医協旭川北医院院長)

＊

素晴らしい企画です。心から賛同致します。「心の会の碑」の建立は、自由の精神を大切にする北海道大学の歴史の豊かさを示すものになると思います。(諸富隆・北大名誉教授)

＊

心から賛同します。私は北大がイールズ闘争で大学の自治と学問の自由を守ることに一つの大きな役割を果たし得たことを誇りに思っています。その北大に「心の会の碑」がつくられることは、とても嬉しいことです。実現にむけてともに努力しましょう。(梁田政方・1950法中退、元日本共産党中央委員)

＊

宮澤さん、レーンさんのことを知らずに卒業しました。「心の会」には、本当の国際交流があったと思います。クラーク像とともに、多くの人が訪れるところになってほしいと思います。(吉田栄一・1971年農卒、私立高校講師)

＊

現在の状況を考えるとき、極めて重要な意義深い企てだと、心から賛同致します。(吉田徹也・北大名誉教授)

＊

「碑」が良いかどうか判りませんが、建立の経緯 etc を記してください。大学としての責任も記されていると、なお良いと思います。北大関係者が今後とも戒めとして心に刻むことのできる碑をお願い致します。時代はそこまで逆もどりしています。(石井明典・1961年経卒、元銀行員)

＊

よろしくお願いします。大学院在学中に大黒マチルド先生のお宅にうかがって仏語を習っていました。戦中のことを少しお話しされていた事を覚えております。大変だっただろうと思うとその時思ったのでした。でも詳しくはお話になりませんでした。当然ですが。でも当時の事がよみがえってきます。(居城舜子・経院元常葉学園大学教員)

＊

二度とこのような冤罪が起こることのないよう、「碑」を建立する意義は大きいと思います。(岩崎俊夫・1979年経院卒、立教大学経済学部教授)

＊

大賛成です。我らが愛する北大がかつてあったことを今後にも忘れないように記憶に残すためにも、また北大は過去の過ちを率直に認め、将来にわたって同じ過ちをおかさないことを明言するほどに、寛大な大学であることを公に示すためにも、大学当局が率先して事に当たってほしいと思います。北大の卒業生皆が、そのことを熱望していると思います。(近昭夫・1962年経卒、静岡大学、九州大学名誉教授)

＊

「建立地の無償提供」に踏み切れない学校当局は、文科省を意識しているからでしょう。民主主義教育を破壊しつつある文科省に対し、教育を国家から取り戻す運動の一環としても、この運動を推進することに賛同致します。(斉藤修治・1960年経卒)

＊

フォスコ・マライーニさんの関係もあって、以前より関心を持ってまいりました。碑の建立ができることを心よりお祈りしています。(佐々木隆生・北大名誉教授、北星学園大学教授)

＊

宮澤さんの冤罪を完全に晴らすことと、レーン先生初め外国人教師の方々の示された理想を多くの人に広めるために賛同します。(佐藤市雄・1967年経卒、元会社員)

＊

国際性と永遠平和の誓いを表現する碑名を期待します。建立碑の募集は口数毎で行った方が良いと思います。

す。(田部徹・1967 年経卒)

＊

「心の会」に集っていた外国人教師と学生たちは、クラーク、内村、新渡戸らの国際的人道主義の伝統が、困難な戦時下でも受け継がれていたことを身を持って示してくれました。この北大の伝統を新しい学生たちへ伝えるために、記念碑は大変有効だと思います。(田中章義・1957 年経卒、東京経済大学名誉教授)

＊

皆さんの長い間のご苦労が稔り、宮澤弘幸さんの冤罪事件についても一定の方向が出だしたことを歓迎しています。宮澤さんやレーン先生の心の支えになっていた「心の会」の碑を、元外国人官舎の在りました北大構内に建てることにはもちろん大賛成です。具体的な方向が出ましたら、応分の協力をさせていただきます。大変でしょうが引き続きのご努力をお願いします。(田村一郎・1962 年哲院、鳴門教育大学名誉教授)

＊

この運動が平和を愛する人々の心に広く届くことを願っています。(成島辰巳・1973 年経修了、元大阪学院大学)

＊

北大の歴史で同じことを二度と繰り返さないよう、記憶にとどめるため、必要です。(山口博教・1974 経卒、北星学園大学教授)

＊

「碑」の建立、賛成です。また文書館年報に宮澤・レーン事件について、論文の形で掲載されることを望みます。山本玉樹さんあたりには是非御執筆願いたいと思います。(鈴木秀一・北大名誉教授)

＊

本来ならば、北大自身が自らこの碑を建立し、「二度とこのようなことを繰り返させません」と誓うべきだと思います。あくまでも北大が協力したという形にすべきです。上田弁護士の息子さんが副学長のうちにぜひ実現しましょう。(藤田正一・元北大副学長)

＊

ご尽力に感謝。クラークとか新渡戸氏とか前面にたてる必要があるのでしょうか。アジアとの向きあい方で厳しくとらえる見方があります。宮澤・レーン事件の背景としても趣旨文に皆さんが共鳴されるものが要請されると思いますが。(井上勝生・元北大教員)

＊

北大在学中、レーン先生があのようなひどい経験をされたことは全く知りませんでした。ビデオは幌向地区の卒業生の間で大きな反響を呼んでいます。是非「心の会の碑」の建立を実現したいと思います。(石山聖晴・国立釧路工業高等専門学校教授)

＊

宮澤弘幸さんは東京に生まれ恵まれた家庭で、読書、器械体操、水泳、柔道などに打ち込み、旅行が好きな

快活な少年として成長しました。また、父の勧めで大学は工学部に進むが、その後は法学部に入って将来は外務大臣になりたい、という夢を抱いていたとのことです。北大時代はさぞかし充実した意義ある生活をしていただけたことでしょう。その生活と夢を無惨にも打ち碎き衰弱死させた元凶こそ当時の政治であり軍機保護法だったのです。

私は井上勝生氏が書かれた文章を通して、戦後、宮澤さんが「日本の教育制度を十分に修正し、以て日本の民主主義化に資し度い」という意向を持っておられたことを知り、教育学を専攻してきた者として深い感動を覚えました。また、高校時代、英語の時間にはポーリン・レーン夫人から「通りで、トンネマーパという看板を見たけどどんな意味？」と冗談を話されていたことをはっきりと覚えています。

宮澤・レーン事件を知って私の人生をあらためて奮い立たせていただきました。(武田晃二・教育院、岩手大学名誉教授)

＊

現憲法に明示されている精神的自由がない時代、宮澤弘幸さんは卑劣な権力による攻撃に負けることなく闘ったこと。戦後生まれの私は、宮澤さんの良心を受け継ぐことの大切さを学びなおしています。(横倉友子・北大卒)

◇一般市民等

秋間美江子さんがお元気なうちに是非「心の会の碑」が建立されますよう、北大の更なる御協力をいただきたいと願います。(藤原真由美・弁護士)

＊

1959.4.1～1961.3.31、札幌北光教会の伝道師であった私は、教会員であるポーリン・レーンさんに親しく導いて頂きました。またハロルドさんとのお交わりも頂くことができました。秘密保護法を葬り去るためにも「碑」を市民に広く訴えることのできる所に建立することを希望します。(橋本左内・牧師)

＊

いつの世も、安心して学べるように。無限の可能性を秘める若者、その未来を奪う権利は誰にもありません。二度と宮澤君のような事が起きない為にも、この碑の一日も早い建立に賛同します。(西村満津子・元毎日新聞北海道発行所労組書記)

＊

現在の情勢は、全く時代背景がそっくりです。早く政権交代の準備と実現をしなければならないと考えます。打倒安倍内閣！(清水裕二・北海道公立学校職員)

＊

権力による酷い人権・人名の侵害をあらわす大きな具体例として宮澤事件を語り継いで行きましょう。(松永ひさ子・元介護職)

＊

みなさんの尽力で、ここまで運動をすすめられ、具体的な形で成果をあげられたことに敬意を表します。みなさんのご奮闘は私たちの運動を励ます大きな力になっています。ともに頑張りましょう。(宮田汎・治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟北海道本部会長)

＊

「心の会の碑」という名称をどなたにもわかりやすいものにしたいです。説明文も明解なものをそえてください。(長崎美代子)

＊

宮澤弘幸さんを陥れたその若い命を奪った者達と全く同じような勢力がうごめき、その時代を「取り戻そう」としている今、この運動の重要性はますます大きくなっている。(松島和幸・千代田区労協幹事)

＊

北海道大学が正式に「冤罪」を認めたと伺って嬉しかったです。特定秘密保護法は強行採決され、またまた暗雲が。二度と宮澤さんのような時代の犠牲者をうまないことを祈っています。(河部寛美・地方公務員)

＊

北大が宮澤さんの冤罪を認めたこと、喜んでます。立派な「碑」が建立されるよう願ってやみません。(山田善二郎・日本国民救援会顧問)

＊

日本人の心に正義・真理・希望の灯をかかげ、植えてくれた伝統ある大学・北大は、今もその精神は息づいております。とすれば宮澤弘幸氏の名誉を回復し、重んずるという事は、同時に北大の名誉を重んずる事を内外(国際的)に公表することでもあります。Wクラーク師も、内村鑑三、新渡戸稲造その他多くの同大学の学士らの心に叶うだけでなく、その精神の礎を再認識されることとなりましょう。これが「真の和解」ということです。(持田勝)

＊

「心の会の碑」建立呼びかけに賛同します。一日も早く建立されることを願います。二度と戦前のようなことが起こらないようにしたいと思います。(小林昇・元総理府労連副委員長)

＊

「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会」によって執筆、編集された「引き裂かれた青春―戦争と国家秘密」(花伝社発行)が刊行されました。その内容は軍事機密法違反として「真理に生きる学生を逮捕し、でたらめな口実で犯罪者に仕立て上げていく構図です。

高齢者の中には書籍を敬遠される方もいるので、私は右書籍に頼って小冊子で宮澤弘幸事件を取り上げ簡潔に軍機保護法をとおして秘密保護法的一端を明らかにすることにしました。軍機保護法と秘密保護法両者には法的構造に共通したものを見ることができるから

です。

軍機保護法は国民の前には「秘密の範囲」を明確にしながら、実際には抜け道をつくって無制限に範囲を拡大し、特高の弾圧をほしきままにしたのです。

現代の秘密保護法も「特定秘密保護法」とあるが、無制限に拡大される恐れを感じます。

安倍政権は、集団的自衛権の行使により、徴兵制による国防軍の創設、核兵器の保有によって軍事国家として完結するという構図を描いているものと考えられます。そのため国民への抑圧、統制を必要とし、その手段として機能するのが、秘密保護法です。

民主主義を圧殺する「戦前回帰」の悪法を絶対許すわけにはゆきません。日本は平和か戦争かの道の岐路に立っているからです。(小冊子「あとがき」より)(秋間達雄・元高校教師)

＊

レーン先生のお嬢様たちが本校の卒業生でありました。学園としての答えは出ておりませんが、本校としては微力ではありますが、運動の主旨に協力させていただきます。(浅里慎也・北星学園女子中学高等学校学校長)

＊

貴会と札幌北光教会との連帯をさらに強めて行きたい。(阿部敏夫・札幌北光教会委員、北星学園大学元教授)

＊

歴史的事実の解明と現代社会への問いかけに尽力され、前進を勝ちとっていることに敬意を表します。青年の志をくじいた歴史の汚点を明らかにし、その汚点を少しでも輝くものに、飛躍できるという希望がみえるものにして欲しいと思います。(石田明義・弁護士)

＊

1970年から2009年まで、北海高等学校の社会科の教諭をしていました。先輩の英語教師・松竹谷智は学生時代、レーン先生のお宅をしばしば訪れて学んだと聞いております。そのほかに北明先生を中心に「動く社会科」を数回、生徒5～6名を引きつけて、北海高校ゆかりのある地を歩くフィールドワークをやったことがあります。円山のレーン夫妻のお墓に2回は行っています。呼びかけ人のお一人の山本玉樹先生には、以前からいろいろな行動・運動にご一緒させていただいています。

昨年12月、安倍内閣は「特定秘密保護法」を成立させ、現在チェック機関のあり方やどのように秘密指定するかなど詰められつつありますが、チェックがうまく機能するとは思えません。

この間、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」は、新聞等に問題提起をしてきました。碑の建立に賛成いたします。(岩間忠廣・北海道歴史教育者協議会会長)

＊

北海道大学が、過去の反省を踏まえて、「平和と真理の大学」として生きようとするならば「無償提供」

を進んで受け入れるべきであると考えます。(金子勝・立正大学名誉教授)

＊

建碑実現の後の維持——特にその精神・理念の維持・継承まで見通した建立運動を期待、望みます。(坂口勉・元北海道教育大学教授)

＊

私も以前から「レーン・宮澤事件」に強い関心を抱き、戦時中の軍国主義下における傷ましい弾圧事件として、その真相究明と被害者の名誉回復を強く望んで参りました。また戦時中我々札幌教区長として働いていた平和思想家のラウレンチオ戸田帯刀神父が、獄中のレーン夫妻を訪問し、励まし、又残された家族の面倒をみた事も記憶しております。その戸田帯刀神父も札幌時代「造言飛語罪」で逮捕され、三カ月の獄中生活を余儀なくされ、そして横浜に転勤された後の1945年8月18日、すなわち終戦の日の3日後、憲兵によって射殺されるという「平和の殉教者」の道をたどりました。

私たちは「碑」の建立運動をとおして、これらの「歴史の真実に改めて光を当てる」ことで、今の世が再び戦争への道を歩まぬように、強く監視してゆきたいと思えます。(新海雅典・カトリック神父)

＊

今また忌まわしい過去の日本への回帰の動きがあるなか、あの時代に「スパイ」の濡れ衣を着せられ、命を奪われた前途有為の若者が居たことを広く永く後世に伝えることは、極めて大切なことだと思います。(榎葉悦郎・静岡県平和委員会理事長)

＊

多くの方々と共に成功させましょう。今、必要な時代への警鐘として。(殿平善彦・一乗寺住職)

＊

「心の会の碑」建立の呼びかけ人に元北大総長のお二人が参加されたことは、運動にとって大きな前進です。宮澤弘幸さんの冤罪をはらし、名誉を回復するためにも北大構内に「碑」を実現したいものです。宮澤弘幸さんの妹さんの秋間美江子さんの悲願だと思います。協力は惜しみません。(津田光輝・元大学教員)

＊

自由、人権、民主、平和——豊かな未来を築いていくためにも、たしか「歴史の認識」が共有されねばなりません。過去、現在の正負の体験が正しく心に刻まれて、考察が深められていくなかで、将来の展望が開けます。「心の会の碑」建立に賛同いたします。

私たちがその再審請求を支援した「横浜事件」は、太平洋戦争下、最大規模の思想・言論弾圧事件でした。国家権力は反戦・非戦の思想(あるいは気分)をもつ者に狙いを定め、拷問を加え、事件を捏造しました。大量検挙のなかで4名の獄死者、1名の保釈直後死者を出しました。宮澤・レーン事件と構造・経過はほと

んど同じです。国家犯罪を告発し、人権回復をはかるための再審裁判は、第1次～第4次、24年の歳月を費やしました。その間の2008年5月、事件発端の舞台となった、富山県泊町旅館「紋左」の敷地内に「泊・横浜事件端緒の地」碑が建立されました。地元の治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟・富山県本部や、横浜事件再審裁判を支援する会会員の呼びかけによるものです。呼びかけに応えた人は、地元はもちろん、東京、神奈川ほか全国にひろがりました。以来、碑は反戦、平和、人権を願う人びとの心のよすがとなり、またそうした運動の呼びかけの礎となっています(碑のほかに、事件と裁判の資料展示コーナーもある)。地元関係者も来客をここへ案内して事件を語ったり、富山で集会をもったグループが見学にきたります。

碑はもちろん事件のすべてを物語るものではありません(碑文の文字数は限られる)。しかし見る人が事件を知り、歴史認識を深めていくよすがとなるものです。「歴史の記憶」共有の契機となるものです。

特定秘密保護法、集团的自衛権……、「戦争する国」への暴走が始まっているいま、「非戦・平和の営み」の顕彰、人権・平和への誓いのシンボルとしての碑建立は、大きな意義を持つものです。(橋本進・ジャーナリスト、横浜事件を語り伝える会会員)

＊

「碑」建立の企画に積極的な支援・賛同の気持ちを表明します。まだまだ「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」そのものを知っている人が少ない現状だけに、この企画が持つ意義は非常に大きいと思います。ぜひ全国的な心ある人たちの力でこの企画を実現したいものだと思います。私自身は今年91歳で、戦前戦中の治安維持法や国防保安法が果たした恐るべき役割を身を持って体験しているだけに、「宮澤・レーン事件」によせる関心は人一倍大きいわけです。微力ですが、私に出来る限りのことはさせていただくつもりです。(畑田重夫・日本平和委員会代表理事)

＊

2013年、特定秘密保護法の成立が強行されました。この法律はかつての軍機保護法、要塞地帯法など戦時「秘密保護」法制の一切を包括しており、権力的に国民を抑えつける悪法です。

宮澤・レーン事件は、歴史の大切な教訓となった冤罪弾圧事件です。

私は治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟の活動をしておりますが、無辜の人々を罪に陥れたこの事件と時代を後世に遺すためにも、皆さんの運動を支持させていただきます。そして、宮澤さん、レーンさんなどを重い刑に処した当時の腐った司法が再来しないように、努めたいと思います。(増本一彦・弁護士)

＊

建立についての趣旨に賛同いたしますが、趣意書の文面にある6行目の「……復帰して多くの学生に平和

への願いを伝え、……」のくだりは、「……復帰して多くの学生や市民に平和の願い（心）を持って接し、……」のようにしていただきたかったと思います。といひますのは、私はレーン先生ご夫妻が昭和 26 年に札幌に戻って来られてからお亡くなりになるまで、お交わりをいただきましたが、一度も戦争に関わる話を聞いたことはありません。それだけ平和への強いお気持ちを持っておられたと思います。私の気持ちを述べさせていただきます。

第二次世界大戦には多くの北大生（現役・卒業生）が心ならずも戦禍に巻き込まれたことでしょう。宮澤氏の場合、戦後 69 年の今に至るまで世間の注目を集めているのは、特異なケースであり、極めて不幸な出来事であります。現在も事件の本質は解明されておられません。しかし、宮澤氏の潔白がわかった時点での北大の対応に問題があったと思い、残念です。（松竹谷智・北海道柔道整復専門学校講師）

＊

特定秘密保護法案、武器輸出三原則の破棄、そして憲法 9 条の実質的壊憲につながる集団的自衛権行使など、暴走する安倍政権に“No”を突きつけるためにも、「心の会の碑」の建立には、多大なる意義があり、それがまた宮澤弘幸君と恩師レーン御夫妻の名誉回復の証しとなると考えます。（峯廻攻守・溪仁会札幌円山病院名誉院長）

＊

「心の会の碑」建立の趣旨に賛同し、宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を名古屋とその周辺で広める活動を微力ながら進めます。まず「引き裂かれた青春」の内容を普及し募金を募ります。文中マライーニ一家が「敵国者として名古屋の『強制収容所』に収容されていた」と記述されていることも私の心にとどめ、力を尽くします。運動の成功を祈念します。山本玉樹先生によろしく！（森賢一・元日本平和委員会事務局長）

＊

心より賛同させていただきます。呼びかけ人の中に北大OB総長がお二人おられますが、山口佳三氏は現総長でいらっしゃいますよね。宮澤事件の真相を広める会の方々も再三折衝しておられるのに未だ回答がないのも解せません。戦前・戦中・戦後を通して此の国の体質を思わない日はありません。昭和 5 年生まれの身にとりまして、フェアな心と政治体制を心より希います。（浅田喜久子・主婦）

＊

東京で秋間美江子さんのお話を伺わせて頂く機会がありました。とても感動しました。言わなければいけないことは言う！ 行動しなければ！ と思った時は行動する！ 勇気をいただきました。私は室蘭の出身で 62 歳です。JAL 不当解雇撤回裁判の資料にも目を通して頂けましたら嬉しいです。（石賀田鶴子・JAL 不当解雇撤回裁判原告団）

＊

賛同します。大学当局が文科省の動向を気にして、すぐにOKを出さないかも知れませんが、頑張ってください。（磯貝佳身・元毎日新聞中部印刷工）

＊

私事ですが、私の家の近くに捕虜収容所がありました。小学校 6 年生の頃だったと思いますが、母に「いも」をふかしてくれと頼みました。収容所の「ゴミタメ」に車座で座って、ゴミの中にある「みかんの皮」を食べている捕虜に「ふかしたイモ」を風呂敷ごと投げ込んでいました。また「柿」や山の中にある「グミ」なども投げ込んでいました。

ある日、母が駐在所につれていかれ、3 人の刑事に殴られているのを見て、子供用の自転車で鶴沼に駐屯している父に知らせに行きました。父は小学校の先生ですが、予備将校でした。昭和 19 年に近衛師団に入隊、相模湾米軍上陸阻止部隊長でした。「銃後を守る家族がいるから命をかけて毎日戦うことが出来る」と言っただけで部隊に帰って行きました。82 歳になって過去を振り返ると、人間、最後に残るのは、その人の人柄です。どのような時代でも良い人柄の人がいるものですが、宮澤さんは不運でした。悲しい限りです。収容所長は横浜裁判で死刑となりました。心の会の碑、建立呼びかけ人の皆様、ありがとうございます。山野井さんによろしく。（市川八郎・元毎日新聞）

＊

「心の会の碑」建立、ご苦労さまです。呼びかけ人に北大元総長の名前が二人、記されていることは素晴らしいことです。現総長の山口佳三氏が明言しないのは、文科大臣等関係者に気を使い、躊躇しているだけだと考えます。

たとえ総理大臣が反対しても、現役北大総長として決断する！ その決意を強く促し、偉大な功績を残された方々の世界を認識させれば、必ず同調していただけると確信しています。（今井昂司・元会社員）

＊

「戦争をする国」に急傾斜する世相の中で、これに反対するために、そして後世に語り継ぐために、立派な碑の建立を期待します。（大田宣也・日本中国友好協会副理事長）

＊

新渡戸稲造（顕彰）、遠友夜学校（記念館設立）等々、ともに協力し合って、地球的視野の碑ができればいいですね。（大橋真樹・日本国民救援会札幌西支部事務局長）

＊

碑の建立は大切な事業ですが、それだけに特化・集中せず、引き続き秘密保護法の恐ろしさ（宮澤青年の人生との関連で）を訴え、廃止運動も併行してやっていくことが大切だと思います。（小山内道子・元北海道教育大非常勤講師＝ロシア語）

＊

国民の広い議論もなく「秘密保護法」が造られ、内閣の考えひとつで「集団的自衛権」行使可能が許される、恐ろしい社会です。今日、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」のような出来事を二度と起こさない。この運動は極めて重要です。心より賛同します。宮澤さんらの「思い」・非戦・平和の誓いを「碑」として大学敷地内に建立して頂けるなら、未来に向かって「北大の誇り」となることでしょう。(栗原一郎・毎日新聞記者)

＊

戦前・戦中のあまりにも理不尽な国民抑圧の中でも持って行きようのない怒りが湧いてくる問題に、今更ながら怖さを感じます。何のお力にもなれないと思いますが、出来る事がありましたらお伝えください。何卒お元気で御活躍下さいますよう心より期待しております。(国府谷よし子・元道立衛生研究所勤務)

＊

私は戦後生まれなので、戦争の実情は知りません。国家権力で罪のない個人の一生を台無しにし、死に至らしめ、家族には迫害の辛さを味あわせておきながら、戦後何の謝罪も補償もしなかった政治家に怒りを感じます。その事を忘れないために少しは「碑」の建立が役立てば良いと思います。(小森順江・元国立国会図書館職員)

＊

若い方々が、平和で人権が守られる社会が如何に大切であるかを、戦争が直接的にも間接的にも悲惨なことを知るためにも、碑建立に賛同いたします。永年にわたり、苦しみと悲しみに耐えて来られた秋間美江子様が慰められると信じます。(柴川悦子・元会社役員)

＊

賛成です。北大が目指してきた国籍や立場の違いを認め合いながら学問を追求してやまない「北大の心」を残すべきだと思うからです。(竹市年伸・元毎日新聞地方版編集長＝中部)

＊

暗黒の世を再び許すな！ 反省なくして未来はありません。北大のみなさんとともに歩もう。(茶原正士・いなざわ九条の会事務局長)

＊

秘密保護法に反対する(少なくとも懸念する)意思も表現して頂きたいと思います。(津田秀一・作家)

＊

あの大変な時代に国籍を超えて人としての心を通い合わせた方々が北大に存在した証として、そして冤罪事件を忘れる事のないよう、碑の建立に賛同致します。何と言っても人間はほとぼりが冷めると忘れる動物です。碑の存在は重要です。(寺沢玲子・元日本ヒマラヤ協会常務理事)

＊

直接的には北大の歴史の重要な一部を形成するもの

を示すことになりますが、さらに広く深くは、日本・世界に関連する碑でもあると考えますので、完成後には、例えば、ヘッカー先生のご子孫などにもお知らせしておけば、碑や史料館の文献などを閲覧することも可能となるでしょう。(中原章雄・元東京簡裁調停委員)

＊

心の会の碑の名称は一考を要すると思います。(記事を書く時、心の会の説明をしなくてはならないので)。宮澤・レーンの名前を入れたものにしてはどうかと思いますが。(福山瑛子・元しんぶん赤旗記者)

＊

秋間美江子さんの話をお伺いするたびに、スパイのレッテルを貼られた終わりのない苦しみの日々を思うと、この世にまかり通る不条理さに怒りを覚えます。一刻も早く穏やかな日々が訪れることを心から祈念しつつ「心の会の碑」の建立の実現をお祈り申し上げます。(真木枝里子)

＊

ごくろうさまです。大切な仕事だと思えます。大学が大学らしくあるためにがんばりましょう。(丸山重威・ジャーナリスト、元共同通信・関東学院大教授)

＊

北海道を代表する大学として、道民からも信頼されています。札幌農学校以来の教育思想を示すためにも当局の尽力をお願いしたいと切に思います。場所はもう決まっているのかとも思いますが、北大でたくさんの人が行くような場所がベスト。目立つ場所に。碑の成り立ちが初めて来られた人にもわかるようにしていただきたい(特に事件のこと、二度と繰り返してはいけないこと)。碑をかこんで年に一回くらい集いを持って欲しい(例えば12月8日、8月15日)。北大キャンパスには観光客や市民がたくさん訪れると聞いています。看板などあったらいいですね。(皆川真知子・公立学校教員)

＊

碑建立の主旨に賛同します。是非とも成功させ、「心の会」の精神を永遠のものにしましょう。(山勢哲三・元毎日新聞)

＊

北大構内の一隅に「心の会の碑」を建立することが出来たなら、それは二度とこのような悲劇は繰り返さないという、学内外の多くの人々の思いが結実したものであり、同時に北大の歴史にまたひとつ新たな輝きを与えるものとなるでしょう。(山本有次郎・日本国民救援会東京都本部副会長)

＊

注) 記載にあたって、大学院については、修士(課程)・博士(課程)や卒業・修了・退学等の区別をはずし、経院、文院、理院のように記しました。卒業(修了)等の年度も省きました。

敬称は略させていただきます。

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」のような出来事を二度と起こさせないためにー

「心の会の碑」(仮称) 建立にご協力を

呼びかけ人＝丹保 憲仁（北海道大学元総長）
中村 睦男（北海道大学元総長）
後宮 敬爾（札幌北光教会牧師）
加藤 多一（童話作家）
山本 玉樹（真相を広める会代表・北大クラーク講座主宰）
山野井孝有（真相を広める会代表）

1941年12月8日、アジア・太平洋戦争開戦の日、北海道大学工学部2年生宮澤弘幸さんは、アメリカ人教師レーン先生御夫妻と共に軍機保護法違反すなわちスパイ容疑で検挙され、その後3人とも懲役15年などの重い刑を科せられました。根室の海軍飛行場のことなどは誰もが知っている事実であるにもかかわらず、「軍機」を「探知」し「漏泄」したからというのです。いわゆる「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」であり、他に北大助手ら3名の者も前後して検挙され有罪とされました。

レーン先生御夫妻は収監後1943年に日米交換船で送還、戦後1951年北大に復帰して多くの学生に平和への願いを伝え、札幌の地で亡くなりました。北大生のみならず他大学の学生や多くの市民たちが、レーン先生御夫妻の温かい人柄と無私の施しに大きな感銘を受けたのでした。一方宮澤さんは、恐らくは拷問と脅迫の中、北大生としての誇りを胸にスパイの容疑を否認しつづけましたが、やむなく退学に追い込まれ学問研究の途を閉ざされてしまいました。敗戦後1945年10月に釈放されたものの、過酷な拘禁がもとで衰弱、病身となり、1947年に27歳の若さで亡くなりました。アメリカ在住の実妹秋間美江さんは兄の名誉回復を強く望んでいます。

戦中戦後に、北大で教鞭をとったレーン先生、ヘッカー先生、太黒マチルド先生、マライーニ先生ら外国人教師を中心に、多くの学生たちが彼らのもとに集りました。その集りは「ソシエテ・デュ・クール（心の

会）」とよばれました。彼等は国籍や立場の違いを超え、深い信頼と友情に包まれ、何よりも学問の真理と平和を大切にしました。日米開戦に踏み切った政府は、自由な精神と人間性にあふれたこの集まりを恐れたのです。

ここには、札幌農学校以来の教育思想である真理に倚って立つ自主独立の自修心が息づいていました。この精神こそ、クラーク先生から内村鑑三・新渡戸稲造・宮部金吾らへ、そして多くの卒業生へと誇り高く受け継がれてきたものであり、人間性を否定する戦争を根底において拒否する思想でした。

私たちは北大構内の外国人教師官舎があった林の一隅に「心の会の碑」(仮称)を建て、あわせて「スパイ冤罪事件」の犠牲者の名誉を回復し、レーン先生をはじめとする外国人教師と宮澤さんらの非戦・平和の営みを顕彰したいと考えています。それこそが、再びあの痛ましい事件を引き起こさせない誓いのシンボルとなるものだと考えます。

今私たちは「心の会の碑」(仮称) 建立期成会の結成を準備しています。北大当局との交渉を進め碑建立の条件が整った時点で期成会を発足させ、同窓会など関係者はもちろん、平和を願う多くの方々に、広く碑建立へのご理解とご協力をお願いする予定です。皆様のご賛同を心よりお願い申し上げます。

2014年5月6日

連絡先 北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の
真相を広める会



左＝戦争前夜まで、理想を語り師弟の絆を結び続けた「心の会」発足記念写真（1939年6月8日、太黒マティルド夫人宅にて）



←雪積る外国人教師官舎跡地。ここに「心の会の碑」(仮称)を

＜書評＞ 『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』（花伝社刊・2500円＝税・送料別）

「秘密法制 成立した途端独り歩き」 レーン・宮澤事件 警鐘の一冊に 市民団体が出版



太平洋戦争中のスパイ冤罪事件とされる「レーン・宮澤事件」で有罪判決が確定し、戦後間もなく亡くなった元北大生宮澤弘幸さんの名誉回復を求める市民団体が、事件についてまとめた「引き裂かれた青春—戦争と国家秘密」（花伝社）を出版した。国家機密の漏えいに厳罰を科す特定秘密保護法の施行を年末に控え、「警鐘になれば」としている。

出版したのは「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会」。これまでに発行した冊子の内容を一冊にまとめ、表現を分かりやすく手直した。事件の判決や有罪判決の根拠となった当時の「軍機保護法」の条文も収録し、事件を検証している。

編集を担当した同会幹事で元毎日新聞記者の大住広人さん(76)＝京都府在住、置戸村（現オホーツク管内置戸町）出身＝は「秘密法制は人権に配慮するかのような表現があっても、成立した途端に独り歩きする。その危険性を読み取ってもらえたら」と話す。（北海道新聞 2014年9月18日）

残虐な事件から秘密法への警鐘

荻野富士夫（小樽商科大学教授）

特定秘密保護法の運用基準が閣議決定され、施行が迫るなかで刊行された本書は、故上田誠吉弁護士の『ある北大生の受難』などを底本とし、「新たに判明した事実や理解」を加えて宮澤・レーン事件の全体像を提示したものだ。特定秘密保護法の危険性にあらためて警鐘を鳴らす。

日本軍が対米英戦を開始した1941年12月8日、北大生の宮澤弘幸と米人教師レーン夫妻が軍機保護法違反で検挙された。「平成の治安維持法」というアピールが特定秘密保護法反対の盛りあがりには有効であったが、防衛などの「特定秘密」保護という点からすると、顧みられるべきは軍機保護法である。1937年の大改正を経て息を吹き返した同法は、「防諜」の名の下に一般民衆の「写真趣味」や「饒舌」「不注意」などに起因する言動に襲いかかった。「国民防諜」の機運を高めるととも

に、この宮澤・レーン事件では懲役15年という、同法の運用では突出した過酷な厳罰を下した。

第一部「冤罪の真相」では「仕組まれたスパイ冤罪」の検挙から裁判に至る経緯をあとづけるとともに、国籍や人種を超えつながった師弟がどのように引き裂かれたかを北大の対応を含めて明らかにする。そして、その「冤罪」がいかに「底のない残虐」性を有していたかを、レーン夫妻と宮澤家の戦後の生き方をも通して浮かび上がらせる。

第二部「犯罪事実（冤罪事実）の条条検証」は、第一審と大審院の判決を「探知の部」「漏泄の部」に分けて詳細に検討し、「冤罪の構図」を鮮明に描きだすことに成功している。二つの判決文が収録されていることも貴重である。

（しんぶん赤旗 2014年10月26日）

＜ご購入ご希望の方は、事務局＝1面題字右側に記載してあります＝まで＞

税・送料込み 2300円です（本に同封するゆうちょ銀行払込票でお支払ください）

＜編集後記＞ クラーク博士が最も強調したのは「真理に倚って立つ自主独立の自修心、不撓不屈の精神」であったと伝えられています。混沌とした時代、背筋を伸ばせと迫ってくる言葉です。宮澤弘幸はこの精神を貫き、戦時下であっても「心の会」で視野を広げ、語学と文化の研鑽を積み重ねました。「心の会の碑」（仮称）建立を願う北大OBを始め多くの方の賛同と寄せられた意見には、その思いが込められているように思います。宮澤弘幸の軍機保護法違反判決は冤罪であると認めた北海道大学の姿勢と決断を注目してい

きます◆「真相を広める会」は、2013年1月結成からわずか2年弱ですが、秘密保護法の本質を暴き、廃止の重要性を訴える運動の一翼を確実に担ってきました。そして今、宮澤弘幸の願いを受け継いだように、大学生たちが「秘密保護法廃止、決してあきらめない」と立ち上がっています。「戦争への道」を強行している安倍政権を打倒する運動は間違いなく前進していると思います。「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相をさらに広め、「心の会の碑」（仮称）建立への賛同を呼びかけていきたいと思っています。（事務局長・福島 清）